

太良町地域包括ケアシステム研究会（通称；TC ネットワーク）の活動報告

太良町地域包括ケアシステム研究会は平成 29 年度より、町内の医療、介護、福祉、行政を担う職員が集まり、「町の抱える問題や課題を共有し、理想の町づくりに取り組むこと」を目的に活動しています。

今回は第 1 回目の TC ネットワーク関係者研修会の様子をお知らせ致します。

1. 日時

令和元年 11 月 30 日（土）14：00～16：30

2. 場所

しおさい館

3. 研修内容

1) 第一部 講演会

テーマ；在宅医療の現状と ACP（アドバンス・ケア・プランニング）について

講師；医療法人天心堂 志田病院 理事長 志田知之先生

参加者；町内の医療・介護・福祉・行政機関の職員 55 名

志田病院の歴史と現在の病棟の構成、各種事業所の紹介など、開設当時より在宅医療に目を向けて取り組まれてきた功績をお聞きしました。これからの在宅医療を行う上で考慮すべき、人口動態、高齢化率、看取りの場所など豊富なデータを示され、根拠を持って地域包括ケアシステムにおける在宅医療・介護を担われているパワーを感じることができました。在宅での看取り事例も紹介され、ご家族の笑顔に囲まれて永眠されていく姿は大変印象に残りました。

ACP についても、実践をまじえてお話いただきました。日本人の 7 割の方はご自分で最期をどのように迎えるのか自分の意志で決められない現実をお聞きし、私達、医療・介護・福祉・行政に関わる職員にとって、人生の最終段階の意思決定支援の役割は重要となってくると考えました。ACP とは、「今後の治療・療養について患者・家族と医療従事者があらかじめ話し合う自発的なプロセス」と定義されていますが、ご自身がどうありたいかということをご家族との対話を進めて、少しずつ意思形成をしていく必要があります。また、年齢や健康状態によってもその意思は少しずつ変化していくので、話し合いを継続していく必要性も学びました。



2) 第二部 もしバナゲーム

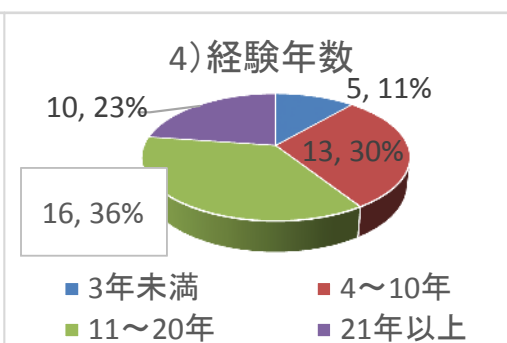
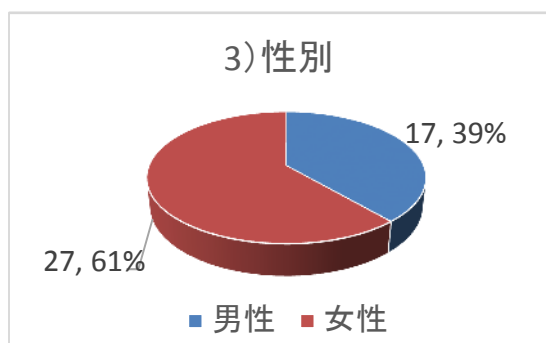
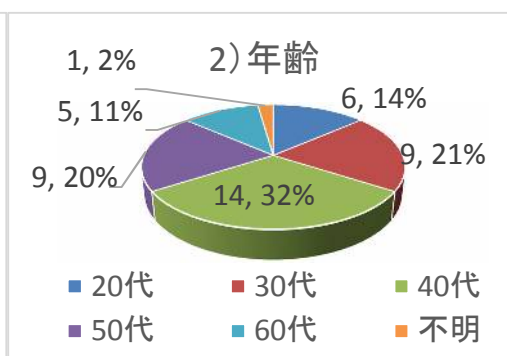
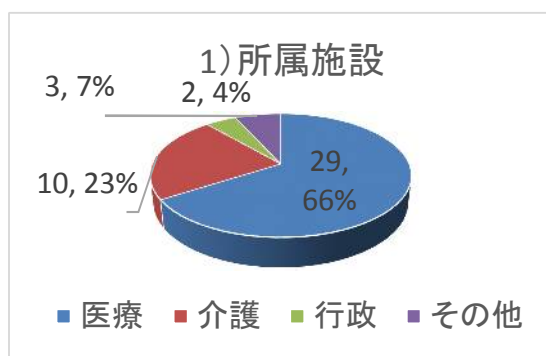
参加者；町内の医療・介護・福祉・行政機関の職員 28 名

もしバナゲームは、余命半年など人生の最終段階を想定して価値観と向き合うカードゲームです。アメリカで「終末期医療における医師・患者のコミュニケーション・ツール」として開発されて、日本で翻訳・製作され、少しずつゲームの体験者が増加しています。もしものための話し合いを「もしバナ」と略されていますが 35 枚のカードの中から、余命半年から 1 年とい

う場を想定してその中で大切にしたいことを選択していくゲームです。写真のように参加者は終始笑顔で、楽しみ、悩みながら体験してもらいました。5枚のカードの中から最重要な3枚を選択しますが最後にそのカードを選んだ理由をまとめて、グループの中で発表しました。また、このゲームを体験しての感想を発表し、参加者全員と共有しました。



4. 研修の結果（アンケート内容）



5) 各質問項目の平均値(4段階評価)

質問項目	平均値
近隣の地域の在宅医療を取り巻く現状について、理解できましたか？	3.5
在宅での看取りの現状について、理解できましたか？	3.6
アドバンスケア・プランニングについて、理解できましたか？	3.3
在宅医療を支援する立場として、これからの課題を考えることにつながりましたか？	3.7
講演の内容はわかりやすかったですか？	3.8
もしバナゲームの意義を理解できましたか？	3.5
もしバナゲームをされて、余命が限定された状況で自分の価値観を考えることができましたか？	3.4
もしバナゲームをされて、率直な感想はいかがでしたか？	2.0
カード選択にまつわるストーリーを考えることはいかがでしたか？	2.0
他者のカード選択にまつわるストーリーを聞いて、ご自分の価値観に参考になりましたか？	3.5
もしバナゲームは人生の最終段階の意思決定支援を行う医療介護福祉関係者に効果のあるツールと思いますか？	3.4
もしバナゲームは人生の最終段階の意思決定において、地域住民に効果のあるツールと思いますか？	3.4

各項目の評価はほぼ高い評価となりました。評価が低くなった2項目は、もしバナゲームを初めて体験された方が多く、カードを選ぶこととカードを選んだ理由を考えることも難しかったことを示しています。

6) 研修で印象に残った内容

(1) 講演について

- ①患者さんの声かけや ACP はその都度変わっていくもので、話を継続していくことが大切であるとわかり、良かった。
- ②在宅での看取り風景が印象に残った。
- ③市町の現状を取りまく環境の整備が必要と感じた。志田病院での取り組みが今後、町の病院へ広まっていけばよいと思う。
- ④患者さん本人、家族との継続した話し合いが大切と感じた。
- ⑤何故 ACP をするのか知りたい。課題がはっきりすると自分でできることが見えてくる。生死の話はタブー文化。この意識を変えていく必要がある。

(2) もしバナゲームについて

- ①人生の最後について考える良い機会となった。
- ②自分がどこに価値をおいているのか、あらためて知ることができた。
- ③人生経験、年齢、思想、宗教により、終末の向き合い方、考え方が異なる。
- ④涙が出そうになり色々な感情が出てきた。生きている今を大切にしたいとまた思った。
- ⑤余命半年の設定は想像がつかなかった。
- ⑥自分のことを考える、他者のことを考えるのが難しかった。
- ⑦病棟で余命間近の方のカウンセリングを行う方があればいいと感じた。
- ⑧地域の施設間でも交流がほとんどなかったが今日参加して、新しい関係もできた。

太良町地域包括ケアシステム研究会では、今後も住民本位の在宅医療を目指して、関係者一同つながりを深めて精進していきます。令和2年2月15日(土)には第2回町民公開講座を開催しますので、一緒に在宅医療について考えていきましょう。

令和元年12月12日
看護部長 武藤雅子